

なぜ戦争がおこるの？

～世界のこれまでと私たちのこれから～

ユニセフのこと

ユニセフ(国際連合児童基金)は子どもを支援する団体。子どものために、大人も支援する。
日本も1949年から15年間、ユニセフの支援を受けていた(最後の年1964年は東京オリンピックの年)。
東日本大震災の時も支援を受けた。

今世界でおこっていること

- ・ウクライナ紛争 8年ほど前から国境付近で紛争がおこっていたが、2022年2月に激化
- ・ガザ地区 **220万人の住民全員**が生活をおびやかされている
- ・各地の紛争 世界で目標として掲げているSDGsからほど遠い現状
- ・子どもの権利侵害 慢性的に栄養不足の子ども 1億4920万人、5歳未満で亡くなる子 年間520万人

1989年に国連で採択された「子どもの権利条約」。現在196の国と地域が条約を締結しているものの、実際には権利(愛情、食事、医療、教育、尊重……自分らしく幸せに生きる権利)が守られていない子どもがたくさんいる。



ネパールでは10歳くらいの女の子の仕事である水運び
15kgぐらいの重さの水がめを往復2時間かけて、3回以上運ぶと
いうことも。多くの時間をこの労働に費やすことになる。

- ・腰を痛めそう
- ・道も舗装されていないだろう
- ・持つだけならともかく運ぶとなると……

地雷

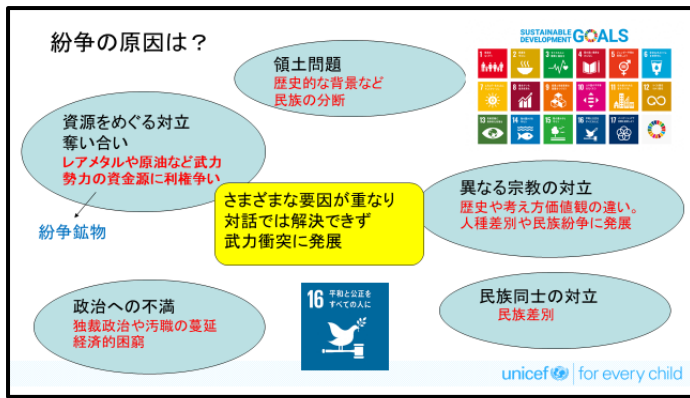
世界中に5千万ともいわれ、100年くらいは爆発の可能性が持続する。24時間稼働。1つ300円ほど。

恐怖心を植え付けるため、一拍置いてから爆発する地雷や、蝶のような形で空からばらまく地雷も。

いずれも、相手をいかに苦しめるかを大人たちが考え、作られた道具。



ワークショップ



- 4人ずつ4つのグループに分かれて、
- ① 世界で今起きていることに対して自分が感じていること。
 - ② 戦争が起こらないようにするためにどのような取り組みを大切にしていきたいかなどを自由に話し合った

- ・戦争がおこっているのはとても残念な事
- ・正義対正義ということもある
- ・個人個人が考えていること、果たしてそれは正しい考えなのか
- ・お互いに歩み寄る、話し合う、相手の声に耳をかたむける
- ・今日の学びも一歩

- ・日本の安全保障が問題
- ・国連をあきらめない

- ・政治に無関心な人が多い
- ・歴史教育も大事
- ・戦争はいつの時代もあり、なくすのは難しい。起きた後の支援や解決の手段を考えたい
- ・大人の考えを変えるのは中々大変。子どもたちに伝えていきたい
- ・これまで考える機会が中々なかったテーマだが、漠然とした不安感があり参加。メディアの情報は正しいのか

- ・考え続けることが必要だが、1人では日々の身近な悩みや体調のことなどで手いっぱい。1人ではなく、誰かと一緒だから考えられることもある
- ・ユニセフ＝募金のイメージ。CMもいつも同じようなイメージ
- ・買い物などのポイントで寄付ができたり、株主優待で寄付できる企業もあるようだ

参加しての感想（一部抜粋）

- ・子ども権利条約について、日常の生活で語られるようにしないといけないと思った。「命」と「戦争」の問題について、さらに深めて学んでいきたい。
- ・戦争のこと、平和の大切さを次世代に継ぎたい。
- ・子ども達の明日が不安だらけです。
- ・子ども、孫に話し続けていきたい。
- ・なかなかあらためて平和のことを話す機会はないので、今日はウクライナ、ガザのことやそれ以外にも世界でもたくさん紛争がおこっていることにおどろきました。自分から知ろうとしないと見えないことは多いと思いました。

